

赤米ニュース

第303号

(2022年6月30日)



東京赤米研究会

〒186-0003 東京都国立市富士見台 4-11-13 メゾン国立 201 長沢方 (Tel.042-577-6855)

6月の赤米作り	2
おしらせ	4
おたより	6
『赤米ニュース』第300号記念報告：赤米の利活用 (IV)	6
表紙解説：国分寺市の年中行事⑥一恋ヶ窪熊野神社の茅の輪くぐり	8

[2022 年版赤米栽培マニュアル]

6月の赤米作り

●6月の赤米作りのポイント

初夏の種まきから、はや1ヶ月がたちました。皆さんのお宅の赤米稲の赤ちゃんの様子は、どうですか？。きちんと芽が出ましたか？。すくすくと早苗が順調に育っていますか？。駄目だったという方々は、今からもう一度やり直してみて下さい。決して遅すぎるということはないですから、大丈夫です。順調にいった方々の場合、もう赤米稲の苗はすっかり大きくなっていることと思います。初夏の日差しを十分に浴びて、これから赤米稲はもっともっと大きくなっていきます。今月は苗の成長を、さらに促進させてやるための、環境作りという点に重点を置いて、作業を進めていくことに致しましょう。

●ガス抜きパイプの設置

初夏から盛夏の頃にかけての、バケツ田んぼの土中ではこの時期、有機物が分解してガスが発生しやすくなってきています。それは土中の微生物の活動が活性化して、肥料や土壌中の養分を、活発に分解し始めるためです。その結果、土中には微生物の活動によって生れた炭酸ガスやメタンガスが溜まっていきます。ガスが地中に溜まったままですと、稲の苗の根を傷めてしまい、急速に早苗の成長がにぶったりすることがあります。そこで、そのガスを抜いて空気中に放出させてやるための通気パイプを、土の中に立ててやるとよいのです。面倒くさいと思われる方々は省略して下さいてもかまいませんが、できることならやっておきましょう。

図3 ガス抜きパイプの設置法

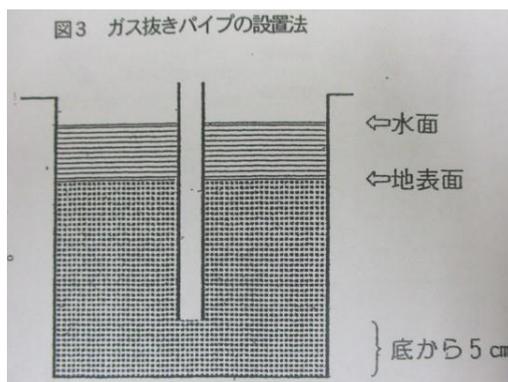
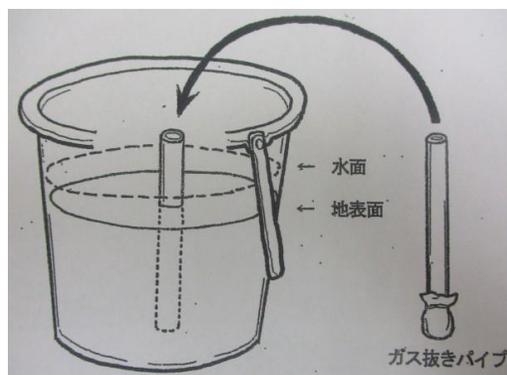


図4 バケツ栽培とガス抜きパイプ

(バケツの中央に1本のパイプを立てる。プランターの場合は2本)



パイプは塩化ビニール製の管でも、ゴムホースを切ったものでも、何でもかまいません。節を抜いた竹でも、サランラップの芯でもよいですし、要するに太い管になっていれば何でもよいのですが、トイレトーパーの芯

では、やや短かすぎますし、強度も落ちるので不適です。

ガス抜きパイプは、バケツの場合は真ん中に1本、プランターの場合は2本ほど立てて下さい。立て方は図3～4のようにし、パイプの下端が容器の底から少し離れるようにして、その上端が水面からわずかに飛び出すような形にセットします。パイプの中に水が満ちていてもかまいませんが、土が詰まっていたはいけません。中が空っぽになっていませんと、そこからガスが抜けませんので、気をつけましょう。

● 苗の成長と水位の調節

6月の赤米稲の早苗は、図5・写真5のような状態に成長しています。苗の草丈は約15～20cmほどに伸びているはずで、すでに5～6枚の葉が出て、早くも分けつを始めている株もあるはずです。

種まき・発芽直後の赤米稲の芽は、細い針状をしています。それが子葉で、双子葉植物のように双葉ではありません。稲は单子葉植物ですので、子葉はつねに1枚です。発芽後、2～3日しますと、子葉の先端から本葉

図5 苗の様子

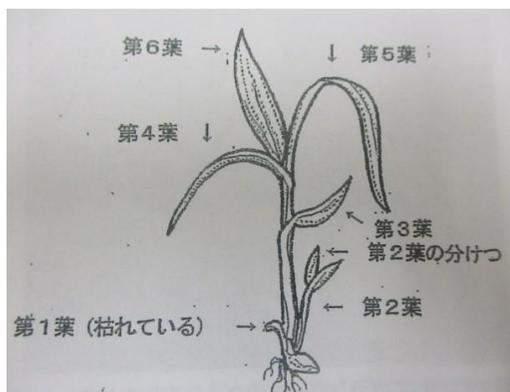


写真5 成長した赤米稲の苗

があらわれてY字状になりますが、それが第1葉です。第1葉はその後、枯れてしましますが、第2葉・第3葉が次々に出てきて、6月中旬には第5葉・第6葉までが出揃い、葉先が長く伸びていきます。早苗の丈が10cmを超えた頃からは、苗の成長に合わせて少しずつ、バケツ内の水位を深くしていきます。

その結果、バケツの中はいかにも田んぼらしくなっていきますが、水の深さは苗の丈の3分の1ぐらいに保ちます。苗が15cmほどに成長した時点での水深は、およそ5cmということになりますが、その後はいくら苗が大きく伸びても、水深10cmまでにとどめて下さい。あまり深く水を入れる必要はありません。ガス抜きパイプの高さも、それに合わせて調節します。水面からほんの少し飛び出たくらいの高さが適切です。

苗には十分に日光を当て、梅雨時シーズンを迎えます。梅雨が明けて夏になれば、赤米稲は急激な成長を開始します。それは本当に驚くばかりの成長ぶりです。タケノコのようにぐんぐんと苗が伸びていきます。楽しみです。それでは7月にまたお会い致しましょう！。

おしらせ

●国分寺赤米会の活動再開

東京都国分寺市の国分寺赤米会（龍神瑞徳会長）では、今年度の活動を4月30日（土）、本格的にスタートさせました。この日、10名の会員が武蔵国分寺跡の赤米畑に勢揃いし、まずはプランターでの苗代作りと播種作業がおこなわれました。これは6月に予定されている、市立第五小学校の校庭にあるビオトープ水田での田植えに用いられる早苗を育てるための準備作業です。

いくつかのプランターやトロ箱を畑に並べ、土を入れて、芽出し済みの赤米の種籾をまいていき、種籾をスズメに食われないように、ネットをかぶせれば完成です。1週間後には見事に発芽し、青々とした早苗が生え揃いました（次ページ写真参照）。五小田んぼの田植えは6月9日（木）に、武蔵国分寺跡の畑での種まきは5月31日（火）に実施されることになっており、教室内での座学が7月15日（金）におこなわれることも決まりました。

次に畑内の土壌調査もおこなわれましたが、計6ヶ所から土壌サンプルを採取してpHメーターで計測してみたところ、すべての調査地点でpH6.5～6.7という測定結果が得られ、弱酸性の理想的な状態になっていることが確認されました。数値は3年前に比べれば大幅に改善されており、硫黄分の添加など毎年続けてきた土壌改良の成果があらわれています。今年は期待できるのではないのでしょうか。昨年の稲刈り後に出た大量の稲藁も、押し切り具で細かく裁断し、畑にまかれました。

5月17日（火）には地元農家の小坂良夫さ

小坂さんが耕耘機で畑を耕して下さいました



んの奉仕でトラクターと耕耘機による畑の耕起と畝立てがおこなわれ、23m×10mの畑があつという間にきれいに耕されました（写真参照）。一部ではマルチング作業もなされています。参考までに、赤米会の今年度の活動計画日程を、以下に紹介しておきます。

●今年の赤米会の活動計画

月	日	作業予定
3月	4日	硫黄 60 kg・堆肥散布
4月	上旬	耕起・土壌調査
	中旬	土壌調査・除草・五小ビオトープ 整備
	下旬	土壌調査・除草・一部苗作り
5月	7日	トラクター耕起・マルチ敷設
	中旬	一部播種・五小種まき準備
	31日	五小体験授業（種まき）
6月	9日	五小ビオトープ水田田植え
	中旬	除草・補植
	下旬	除草
7月	上旬	除草
	15日	五小特別授業（3クラス）
	下旬	除草・白鶴酒造屋上水田見学
8月	上旬	稲補強・倒伏対策
	中旬	稲補強・倒伏対策
	下旬	除草

9月	上旬	一部稲刈り・補強作業
	中旬	稲刈り
	下旬	五小ピオトープ水田稲刈り
10月	3日	五小体験授業（稲刈り）
	7日	五小ピオトープ水田稲刈り
	中旬	稲刈りの続き
11月	上旬	藁細工教室・籾摺り作業

●NHKテレビ番組に協力

国分寺赤米会ではこのたび、NHKのテレビ番組の撮影に使いたいので、赤米の種籾と藁を提供して欲しいとの依頼を受け、協力をしました。番組はBSプレミアムの「ダークミステリー」といい、あまり知られていない歴史的な事件をドラマで再現するドキュメンタ

リーです。静岡県漁船が1919年に難破して、絶海の孤島（鳥島）に漂着し、乗組員3人がアホドリなどを捕えて食べつつ何とか飢えをしのぎ、20年間も生き延びて1939年に救助されるという事件が、実際にあったのだそうです。彼らが無人島で暮らしていた時のある日、赤米の籾が詰められた米俵が島に流れ着いたのを見つけ、さっそくそれを島で栽培して食糧にしたといいます。

そのシーンの収録は4月10～11日におこなわれ、赤米会より提供された武蔵国分寺赤米の種籾と稲藁とが、撮影に用いられました。番組は6月2日（木）に放映される予定で、地上波でも後日、再放送されるかも知れません。よろしければご覧になって下さい。

4月30日にまいた赤米稲の種籾が、元気よくいっせいに発芽しました（5月17日）。



●赤米の甘酒作り

これもまた、国分寺赤米会の話です。昨年、国分寺市内で収穫された武蔵国分寺種赤米を原料に用い、甘酒を作って販売しようという計画が、現在進行中です。甘酒の仕込みを依頼する醸造メーカーは、愛知県内にある合資会社で、この会社ではすでに古代米赤米を用いた甘酒商品を販売しております。

赤米を用いて醸造された酒を販売する場合、いろいろ面倒な法的規制があつて、なかなかむずかしいのですが、甘酒であればアルコール分0%なので、どこでも簡単に売ることができるということです。原料の赤米が1升ほどあれば、100本ぐらい仕込むことができるのだそうです。クラウド・ファンディングによって初期費用を集め、とりあえず720ml瓶で200本ほどを発注する計画で、出資者には2~3本ずつ配布し、残りを1本800~1000円ぐらいで販売したいということです。赤米会では、その赤米甘酒のブランド名を現在、募集中です。国分寺市の新名物にふさわしい、よい名前を思いつかれた方は、ぜひ赤米会の担当者（前澤宏・Tel 090-892-2997）までお知らせ下さい。

●小学校の副読本に赤米が登場！

国分寺市の小学校用副読本に、武蔵国分寺種赤米のことが取り上げられています。次ページにその部分を転載しておきましたが、これは国分寺市小学校社会科副読本作成委員会の編集した『わたしたちの国分寺』（2018年・国分寺市教育委員会発行・p.136）です。2018年版から赤米のことが取り上げられるようになり、最新の2022年版にも載せられています。

おたより

●胡桃堂の赤米くるみカレー（長沢利明）

国分寺市の胡桃堂喫茶店（東京都国分寺市本町2-17-3）で今年から新メニューに加えられている「赤米くるみカレー」を食べてみました（写真参照）。とてもおいしかったです。牛乳でペースト状に加工した「くるみミルク」に大豆・ひよこ豆を加え、スパイスとともにルーに煮込んだ辛さ控えめのカレーで、マイルドな味です。ライスにはもちろん、武蔵国分寺種赤米が用いられ、ピンク色のきれいな御飯となっています。季節野菜の自家製ピクルスも添えられています。価格は1杯980円です。皆さんもぜひ、おためし下さい（5/1：東京都国立市）。



とてもおいしい胡桃堂の赤米くるみカレーです

『赤米ニュース』第300号記念報告

赤米の利活用(Ⅳ)

長沢 利明

(4) 小中学校での栽培学習・つづき

そのようにして日本中の小・中学校で、赤



9 国分寺をもっと深く知るために

歴史の町 国分寺

国分寺は、古くからの歴史がある町です。



平成9年、きちょうな
あかまい
赤米のいねが国分寺市
の畑で見つかりました。
むさしこくぶんじしゅうあかまい
「武蔵国分寺種赤米」と
よばれ、平成27年には
ふたたびさいばいが始
められました。

てんびょう
天平メニューとして取り入れられたり、市内の小学生がだっ
こく体けんをしたり、多くの人に知ってもらえるようにくふう
しています。



▲天平メニュー・国分寺ごはん



米の栽培学習が授業に取り入れられていくことになったのです。それは、まずは関西の小・中学校から始まり、京都府の京都文教短期大学付属小学校、兵庫県の尼崎市立立花小学校や養父市立八鹿小学校などでその先進的なところみがなされるようになりました。1990年代には、東京周辺の小・中学校でも次々にそれが始められ、表2に見る通りなのですが、関東地方の各小・中学校の場合、そのほとんどで東京赤米研究会による種子の提供や栽培法の指導がなされております。

赤米栽培学習を授業に導入し、大きな成果をおさめてきた小・中学校ではどこでも、やる気のある熱心な先生方が必ずおられるもので、すぐれた指導力を発揮してこられました。京都府の京都文教短期大学付属小学校の二橋定賢校長、兵庫県の八鹿小学校（当時は小佐小学校）の小山六郎校長などがまさにそうした方々で、見事なリーダーシップを発揮され、児童らを引っ張ってこられたのです。そして、この東京都内にも、すぐれた指導者が一人おられ、都内の小学校で最初に赤米作りをこころみ、大成功をおさめられたことを、私は忘れることができません。

その人こそが、板橋区立稲荷台小学校の教諭で、5年生の担任教員をつとめておられた浜口景子さんなのでした。彼女は1999年、教え子らと試行錯誤を繰り返しながら、全校をあげての米と稲作について学ぶ総合学習の授業を作りあげ、1999年に初めて校内での赤米作りを成功させたのです。「総合（学習）は、まず教師が題材そのものを楽しみ、どっぷり浸かることが大切。私は思い立ったら、どこへでも行き、だれにでもインタビューする」というのが彼女のモットーで〔浜口, 2003: p. 71〕、その言葉通り、浜口さんは農協青年部や関係

団体などと体当たりで交渉して種籾や栽培技術などを提供してもらい、専門家を教室に招いて話をしてもらったり、収穫米を教え子らとともに調理して試食してみたり、外国人を呼んで国際交流プログラムを開催したり、という具合に素晴らしい授業を作り上げてこられました。

浜口さんはその後、2000年に板橋区立赤塚小学校に転勤されたのですが、そこでも精神的に行動され、校長や同僚教員らを説得して、今度は6年生全体での社会科学習の題材として、赤米栽培の導入を実現させたのです。クラスごとに用意された大型プランターやバケツを全教室のベランダに並べ、東京赤米研究会から大量に提供された4大赤米（総社種・種子島種・対馬種・武蔵国分寺種）が、赤塚小学校でこうして、大規模に栽培されることになったのです。

児童らは熱心に赤米稲の世話をし、夏休み中も水やりを欠かさず、台風が来た時には教室内にプランターを避難させ、秋にはついに収穫にまでこぎつけました。（つづく）

〔表紙解説〕 国分寺市の年中行事⑥—恋ヶ窪熊野神社の茅の輪くぐり—

一年の半分を過ぎた6月30日、各地の神社ではこの半年の間に、氏子の心身に積もり積もった罪穢れや災厄を祓うための神事がおこなわれ、これを「水無月祓い」と呼ぶ。神社の境内には茅（ススキ）を束ねて輪に作った茅の輪が飾られるが、その輪をくぐり抜けると病気をしないといわれている。恋ヶ窪にある熊野神社では、ひときわ大きな茅の輪が境内に設けられ、疫病退散を祈って氏子らが終日、そこをくぐる姿が見られる。コロナ除けのご利益もあるかも知れないので、ぜひ皆さんも、茅の輪くぐりをやってみていただきたい。